

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成26年6月2日 NO.8

6月2日(月)の全校朝会にて・・・安全な登下校を！自分の命を大切に！

5月30日(金)、朝、地域の方より電話がありました。その内容とは、「南武線の踏切の遮断機が下りているにもかかわらず、その下をくぐり抜け渡っている国立七小の児童がいる」というものでした。また、その方が「あぶないですよ！」と注意しても、素直に聞き入れなかったということです。この連絡を聞いて、校長先生は、とても驚き悲しくなりました。2年生か3年生のようだったということで、すぐに体育館に集合させ厳しく指導しました。また、その後、全校児童に聞き取りを行いました。他の学年でも同じように踏切近くで、危険な登下校をしている児童がいるということでした。

踏切を渡っていて、突然カンカンと鳴り出すことはよくありますが、その時には、進むか元に戻るかは、その場所で判断すればよいことです。しかし、今回は違います。カンカンと鳴り出し、遮断機が下り始めても通り抜けてしまう児童がたくさんいるようです。とんでもないことです。おうちの方が、「気をつけて行ってらっしゃい！」と送り出してくれているにもかかわらず、何という行動でしょう。ふざけていいことと悪いことがあります。絶対にこのような事をしてはいけません。もし、大きな事故でもあったら、おうちの方や先生・友だちが深く悲しみます。絶対にやってはいけません。自分の命を大切にしてください。校長先生からのお願いです。

校長先生には、悲しくつらい思い出があります。それは、今から22年も前のことです。先生が勤めていた学校の子供が、朝の登校の時に車にひかれて死んでしまったのです。その子の名前は『長谷元喜(はせげんき)くん』といいます。小学校5年生でした。

平成4年11月11日の午前8時、八王子市上川橋交差点での痛ましい交通事故でした。妹と一緒に登校し、青信号で横断中、同じ青信号で背後から左折してきた8トンのダンプカーに巻き込まれてしまいました。駆けつけたおうちの方は、交差点のかたわらで毛布にスッポリと覆われたものを見て、事故の重大さを悟ったそうです。救急車にも乗せてもらえなかったということは、明らかな即死でした。

元喜くんは、とても素直な明るい子で、親に教えられた通り、学校で習った通りの方法、青信号で渡りながら命を落としてしまったのです。その後、肩のベルトが引きちぎられた元喜くんのランドセルの中から元喜くん手作りのカードが見つかりました。そのカードは、授業で使うためのものであったそうです。そのカードは、「教室のカーテンの色は何色？」「ドラえもんはどこから来たの？」といった質問の中に、こんな1枚がありました。『信号はなぜあるの？』答えには、こう書いてありました。『信号がないと、交通事故にあうから』・・・と。父親の智喜(ともき)さんは、思ったそうです。『息子は今ごろ天国で、ウソだ！と叫んでいるだろう。信号があっても事故は起きた！ぼくは死んでしまった・・・と』

交通ルールを守っていてもこのような悲しい事故が起こります。同じような事故は、日本全国でありとても痛ましいことです。いつどこで起こるか分からないのが事故です。ふざけて歩いていると大きな事故になります。細心の注意をして登下校して下さい。おうちの方や先生・友だちを悲しませるような事故は、絶対に起こさないで下さい。これは、校長先生や学校の先生からのお願いです。国立第七小学校のみなさんには、未来があります。夢があります。希望があるのですから・・・。